

2017年9月19日

各 位

会社名 株式会社 キャンパス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

CBP501作用メカニズムに関する論文のOncotarget誌への掲載について(3報め)

米国の有力な論文誌Oncotarget^{※1} オンライン版に、2017年6月23日・2017年7月20日に公表した論文掲載^{※2}に続き、当社が開発中の抗癌剤候補化合物CBP501の作用メカニズムに関する3報めの論文が掲載されましたので、お知らせいたします。

“CBP501 induces immunogenic tumor cell death and CD8 T cell infiltration into tumors in combination with platinum, and increases the efficacy of immune checkpoint inhibitors against tumors in mice”

《全文HTML》 PDFへのリンクもこのページに掲載されています。

<https://doi.org/10.18632/oncotarget.20968>

この論文では、CBP501がプラチナ製剤との組み合わせによって**免疫原性細胞死^{※3}とCD8細胞傷害性T細胞の腫瘍組織への浸潤を促進**し、これらにより**免疫チェックポイント阻害抗体の薬効を高める**ことを動物実験で示しました。

同誌に掲載された過去2報の論文(2017年6月23日公表分、2017年7月20日公表分)では、過去に明らかになっていた「細胞周期G2チェックポイント阻害によるDNA損傷修復抑制作用」「カルモジュリン阻害によるプラチナ細胞内濃度上昇を通じたDNA損傷増加作用」に加えて、

(1) **カルモジュリン阻害による癌細胞の遊走・浸潤・上皮間葉移行を阻害する作用**

(2) **癌微小環境で癌の増殖を助けているマクロファージを抑制して癌幹細胞増加や転移を抑制する作用**

を示しました。

今回掲載された結果と併せて、これらの結果はいずれもCBP501の抗癌剤としての価値(魅力・有望さ)を裏付けるものですが、今回の論文で示した「**免疫原性細胞死と細胞傷害性T細胞の浸潤の促進による免疫チェックポイント阻害抗体の薬効向上**」は、その中でも特に中核をなすものです。

癌の分子標的治療領域の医学論文誌Oncotarget誌は今回、この論文を「Priority Research Papers」(優先度の高い重要な論文)に選定し掲載しています。

これは、免疫チェックポイント抗体の薬効を高める治療への諸方面からの関心の高さを示すとともに、この論文で示したCBP501の能力のめざましさを示すものです。

今回の論文掲載は、既に米国で被験者募集を開始したCBP501と免疫チェックポイント阻害抗体ニボルマブ(商品名:オプジーボ)とシスプラチンとの3剤併用によるフェーズ1b臨床試験^{※4}の基礎となっている我々が樹立した作業仮説の確からしさをさらに高め、CBP501の抗癌剤としての魅力を改めて客観的に示したと考えています。

以上

【注】

※1 『CBP501作用メカニズムに関する論文のOncotarget誌への掲載について』 2017年6月23日公表
<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1488473>
『CBP501作用メカニズムに関する論文のOncotarget誌への掲載について(2報め)』
<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1497111>

※2 Oncotarget誌は、Impact Journal社が2010年に創刊した、癌の分子標的治療領域で高い評価を受けている査読つき医学論文誌です。
<http://www.impactjournals.com/oncotarget/index.php?journal=oncotarget>

※3 免疫原性細胞死とは、炎症が生じ免疫系の働きを促すような細胞の死に方です。
癌細胞は死ぬときに免疫系に悟られないよう周囲に炎症を生じさせずに死ぬことが多く、それでは免疫系が賦活されないため、免疫チェックポイント阻害抗体の働きを弱める要因のひとつとなっていると考えられています。今回の論文で、CBP501が免疫原性細胞死を促進することで免疫チェックポイント阻害抗体の薬効を実際に高めることを示しました。

※4 CBP501フェーズ1b試験の内容
『CBP501 臨床試験(フェーズ1b試験)開始承認取得について』 2017年4月10日公表
<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1457047>

ClinicalTrials.gov “CBP501, Cisplatin and Nivolumab in Advanced Refractory Tumors”
<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT03113188>

当社の抗癌剤候補化合物CBP501は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業の結果得られた「堅牢な合成方法」を活用して製造しています。
--